





# 審査結果報告書

2021年 / 月 14日

主査 氏名 猶木 克彦 

副査 氏名 比企 直樹 

副査 氏名 天野 英樹 

副査 氏名 内藤 剛 

1. 申請者氏名 : 中尾 将之

2. 論文テーマ : 高齢者肺癌に対する胸腔鏡手術の治療成績に関する研究

3. 論文審査結果 : 申請者は高齢者肺癌における胸腔鏡手術の治療成績に関して一施設における後方視検討を行った。2008年～2016年に胸腔鏡下で肺葉切除以上の完全切除が施行された非小細胞肺癌を対象とし、80歳以上のリンパ節腫大を伴わず(cN0)縦隔リンパ節郭清を施行しない高齢者肺癌(0群)、比較対象として70-79歳で縦隔リンパ節郭清まで施行されたcN0の肺癌(S群)を抽出し比較した。背景因子ではcT因子、pT因子は0群で有意に進行例が多く、5年全生存率(OS)、5年疾患特異的生存率(CSS)はいずれも0群で有意に不良であった。全症例での多変量解析ではpT因子のみが独立予後規定因子であった。手術時間、出血量は0群で有意に少なく、術後合併症割合は有意差を認めなかった。cT因子を含む背景因子をマッチさせた両群間において5年OS、5年CSSは有意差を認めなかった。以上から、80歳以上のcN0非小細胞肺癌における縦隔リンパ節郭清を省略した胸腔鏡手術は、妥当であると結論づけた。

この内容に関し、審査員から、妥当性の意味、多変量解析での因子の選択、日本での高齢者肺癌手術の現状、無再発生存期間での検討、後治療の影響、などに関して質問がなされた。これらに対し申請者は明快に回答・説明され、また、今後の検討課題も認識された。研究・考察が適切になされており将来につながる研究であると評価された。以上より、本研究は学術的成果に資する価値ある業績と評価され、学位論文として適切であると判定された。